街はクリスマスのイルミネーションに彩られています。今年はコロナ禍にあって、あまり外出もできそうにありませんが、子どもたちは園で松ぼっくりのクリスマスツリーを作ったり、折り紙でサンタクロースを折ったりして園内のクリスマスムードを盛り上げてくれています。保護者の皆様には今年一年、本園の教育・保育活動にご理解とご協力を頂きありがとうございました。

今年の冬は寒暖差が激しく、隔週で気温が高くなったり低くなったりで、体調管理が難しいですね。それでも子どもたちはグリーンテクパークや里山などに散歩に出かけたり、園庭で鬼ごっこや縄跳び、ボール遊びなどで体をたくさん動かして遊んだり、体力をつけて寒さに負けない丈夫な体づくりを目指しています。新型コロナウイルスの感染は拡大し続け、皆様も不安な日々をお過ごしのことと思いますが、これから迎える年末年始休業中は、外出の機会も多くなることと思いますので、ご家庭でも引き続き感染症予防対策を万全に行っていただき、ご家族お揃いで健やかに新しい年を迎えられますよう、ご協力をお願いします。

一人一人が主役の発表会(５歳児)

１２月５日（土）に５歳児クラスの発表会を開催しました。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、２部構成とし１部・にじ組、２部・そら組の順に観覧の方は各家庭２名までとし完全入れ替え制で行いました。

また、今年初めての試みとしてスクリーン上で子どもたちが発表会に向けてどのように取り組んできたかを各クラスの担任が写真とコメントで紹介しました。その中で、子どもたちが苦労したり友だちと力を合わせたり工夫したりしながら当日まで試行錯誤してきた軌跡を保護者の皆様にご覧いただいた後に子どもたちの劇や歌を披露したことで、保護者の皆様からは「当日までの説明があって子どもたちの頑張りがわかってよかった」「苦労して衣装を作った様子が伝わった」などのご感想を頂きました。当日の子どもたちは、登園後の控室を覗くと「あ～緊張する！」「なんかドキドキしてきた」と、そわそわ落ち着かない様子の子。「すごい楽しみ！早くやりたい！」と、わくわくの子もいて表情は様々でした。

それでもいざ幕が上がると、どの子もみんな瞳をキラキラさせて、劇の役になりきり大きな声で台詞を言い、劇中で大道具を動かしたりカーテンを開け閉めしたり、心から劇を楽しんでいるようでした。歌は、いつも保育室で友だちと一緒に楽しんでいる大好きな曲をみんなで選んで歌いました。楽しそうにみんなで考えた振付で踊りながら笑顔で歌う子どもたちを見ているだけで Happy な気持ちになりました。各クラス１時間半ほどの発表の場でしたが、子どもたちにとって充実した楽しい時間になったようです。足を運んで下さった皆様には発表会の開催に当たりご理解ご協力頂き、ありがとうございました。

休業中の新型コロナウイルス等の感染症予防について ※必ずご確認ください。

報道等にあるように、依然全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が広がり、重症者の割合も増えてきている現状があります。年末年始に向けて外出の機会も増えてくるかと思いますが、引き続き次のことについてご注意いただき、各ご家庭での感染防止策をお願いいたします。

- 外出するときは必ずマスクを着用し、三密を避けるようにしましょう。
- 外から帰ったら、うがい・手や顔を洗う・衣服を着替えるなどをして、なるべく室内に菌を持ち込まないように気をつけましょう。
- 発熱や体調不良がある場合は無理をせず、必ず早めに受診をして医師の指示に従いましょう。
- 家族全員、毎朝検温をする習慣をつけ、体調管理に努めましょう。

以上の点に注意し、休業明けには全員そろって元気に登園してくれることを願っています。

【新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル】※感染に不安がある場合

☎０５７０－０５６７７４（無休・24 時間対応）

【発熱等診療予約センター受付窓口】※発熱等の症状があり、かかりつけの病院に行かれない時

☎０５７０－０４８９１４（９：００～２１：００）

「自己肯定感を育む」ということは・・・？

「自己肯定感」という言葉は、耳にしたことがあると思いますが、意味を調べてみると「自分のあり方を積極的に評価できる感情」「自分の価値や存在意義を肯定できる感情」とあります。

では、「自己肯定感」はどのように育まれていくのでしょうか。国際的な見解では、日本人は特に「自己肯定感」が低いと言われていて、それは日本特有の「謙遜する」文化と関係しているようです。他人から「お宅の息子さん、〇〇が上手ね」と褒められても親はつい「そんなことないですよ」と言ってしまいがちなのが日本人です。そんな「謙遜文化」で育った大人たちがそもそも褒められることに慣れていないのです。でも、そんな中で「自己肯定感」を育むのはとても難しいことです。

本園では日頃から、子どもたちが「自己肯定感」をもてるようなかかわり方を大切にしています。それは、そんなに特別なことでも、難しいことでもありませんし、誰にでも簡単にできることなので、是非ご家庭でも実践してみてください。

①子どもが悲しい、嫌だ、辛いなどマイナスの言葉を口にしたときに、「何言ってるの」「頑張りなさい」「弱虫ね」などと言わず、まずその気持ちを認める言葉を掛けましょう。「悲しいよね」「いやだよね」「つらかったね」こう繰り返すことで、子どもたちに分かってもらえたという安心感が生まれます。

②何かに挑戦して、できるようになった時に「すごいね」「上手だね」だけでなく、「諦めないで頑張れたことがすごいね」「初めの頃より〇〇がすごく上手になってるよ」など、具体的にどこが良かったのかを伝えることで、子どもはさらに自信をつけていきます。

③間違っても失敗しても「だから、違うでしょ！」「何回やってもそれじゃだめね」など否定的な言葉をつかわず、「間違っても失敗しても大丈夫。何回挑戦していいんだから」と、肯定的な言葉をかけることで、応援してくれている、傍で見守っていてくれる存在に安心し、一歩を踏み出す勇気が持てるようになっていきます。

昨今、人とコミュニケーションをとることが苦手な子どもたちが増え、それが原因でいじめに発展するケースも増えています。「自分を大切に思える気持ちがもてると、人のことも大切にできる」と言われています。また、いつも自分を見ていて認めてくれる大人の存在は、子どもたちの心を穏やかにし、安心して色々なことに挑戦しようとする力や、壁を乗り越えていく力がついていきます。どうか子どもたちのありのままを認め「あなたはあなたのままでいい」「あなたの事が愛おしい」と伝え「自己肯定感」を共に大切に育んでいきましょう。